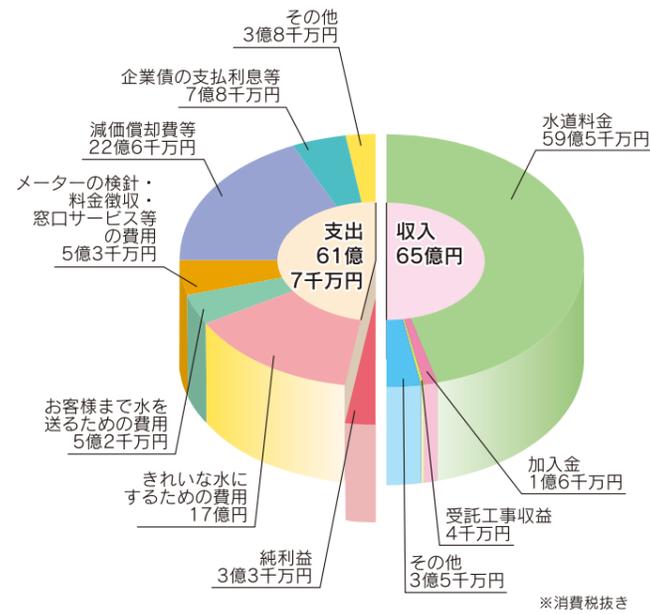


水道事業会計

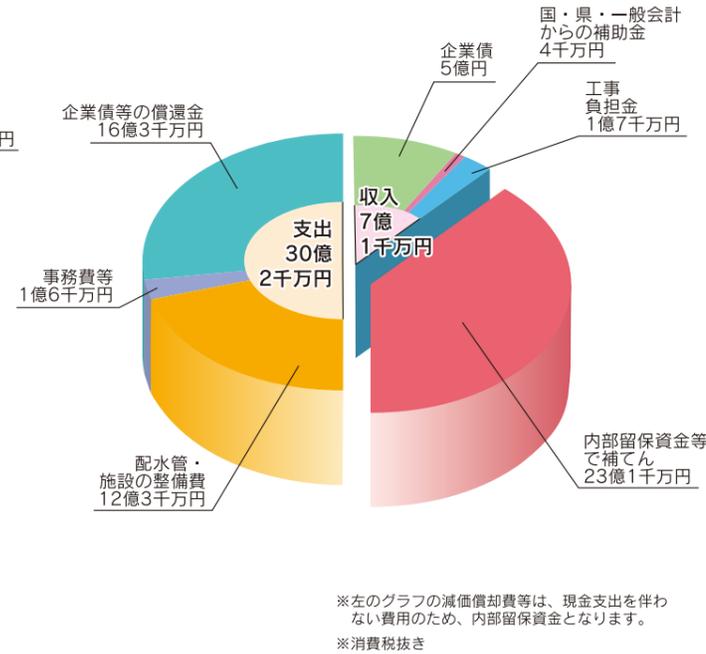
収益的収入・支出

水道水を作り、家庭などに送り届けるため、水道管や浄水施設の維持管理に必要な経費と財源です。



資本的収入・支出

水道管の布設や、処理施設を更新するために必要な経費と財源です。



23年度の事業経営について

水道事業は、市町村合併に伴い、給水区域は拡大しておりますが、環境への配慮による節水意識の高まりや節水型機器の普及などにより水需要は年々減少し、ますます厳しい経営環境となっております。

こうした中、配水管網事業や施設改良事業などを実施し、市民生活に不可欠なライフラインとして、安全で良質な水道水の安定的な供給を図り、さらに東日本大震災による東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質の影響に対しても、浄水場等において、水質の適正管理に努めました。また、高金利の企業債について繰り上げ償還等を行うなど、行財政運営の効率化にも努めました。

こうした結果、昨年度に比べ事業収益は減少したものの約3億3千万円の純利益を計上することができました。

前年度との比較

	平成23年度	平成22年度	比較	
			増減	比率 (%)
給水人口 (人)	367,515	367,321	194	100.05
給水戸数 (戸)	151,230	149,943	1,287	101.86
年間有収水量 (m ³)	45,200,961	46,160,789	△ 959,828	97.92
総収益 (千円)	6,504,052	6,638,600	△ 134,548	97.97
総費用 (千円)	6,169,906	6,163,141	6,765	100.11

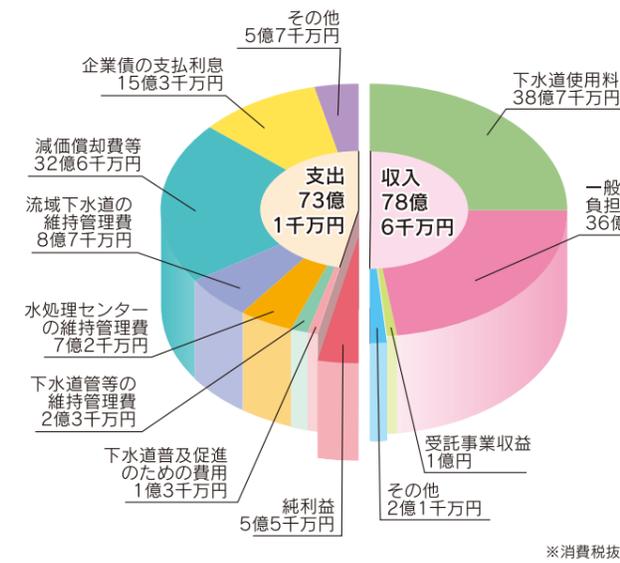
※用語の説明

- ◆ 年間有収水量・・・水道料金収入の対象となった水道水の1年間の水量
- ◆ 減価償却費・・・水道管の布設や施設の更新のために使ったお金を、資産ごとに定められた耐用年数に応じて、毎年少しずつ配分して計上する費用のこと。

公共下水道事業会計

収益的収入・支出

家庭などからの汚水をきれいな水にして再び川に戻すため、下水道管や処理施設の維持管理に必要な経費と財源です。



23年度の事業経営について

下水道事業は、水需要の低迷による下水道使用料の収入の伸び悩みなどにより、ますます厳しい経営環境となっております。

こうした中、計画的な管渠整備や普及促進に努めるとともに、阿久津水処理センターの各施設や管路施設の長寿命化の推進を図るなど、適切な維持管理に努め、さらに東日本大震災による東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質を含んだ下水汚泥焼却灰の適正な管理を行いました。また、高金利の企業債については繰上償還を行い、低利な民間資金へ借換えるなどして、利息の軽減を図り、財政運営の健全化に努めました。

こうした結果、昨年度に比べ事業収益は減少したものの約5億5千万円の純利益を計上することができました。

前年度との比較

	平成23年度	平成22年度	比較	
			増減	比率 (%)
水洗化人口 (人)	250,885	249,788	1,097	100.44
水洗化戸数 (戸)	106,932	105,746	1,186	101.12
年間有収水量 (m ³)	30,972,858	31,264,121	△ 291,263	99.07
総収益 (千円)	7,862,745	7,946,337	△ 83,592	98.95
総費用 (千円)	7,311,376	7,286,910	24,466	100.34

※用語の説明

- ◆ 年間有収水量・・・下水道使用料の徴収の対象となった汚水量など費用負担者が明確になっている1年間の水量
- ◆ 流域下水道・・・複数の市町村域にわたる広域的な下水処理施設のこと。高崎市は、12市町村を処理区域とする「利根川上流流域下水道(県央処理区)」に入る。
- ◆ 減価償却費・・・下水道管の布設や施設の更新のために使ったお金を、資産ごとに定められた耐用年数に応じて、毎年少しずつ配分して計上する費用のこと。

資本的収入・支出

下水道管の布設や、処理施設を更新するために必要な経費と財源です。

